

五つのソラ（英語：five solae、ラテン語：cinque solas）

ソラとはラテン語で、英語の"alone" あるいは"only"、すなわち「ただそのみ」、「ただそれだけ」を意味します。「五つのソラ」と呼ばれるこの教理は宗教改革における欧米のプロテスタント改革神学者、聖職者による神学の根本教理となっています。

○「聖書のみ」

Sola scriptura（ソラ・スクリプトゥラ）-- ("by Scripture alone")

教会におけるすべての伝統や解釈、教条、権威は神の言葉である聖書の権威に服すべきであること。（カトリックでは聖書が神の言葉であることを認めつつも、聖書が唯一の権威であることには同意せず。）

○「信仰のみ」

Sola fide（ソラ・フィデ）-- ("by faith alone")

救われるためには善行が手段としてあるいは要件となるものではなく、ただ信仰のみによる。すなわち、信仰義認とも呼ばれるものでルターの宗教改革の中心的教理である信仰義認のテーマになりました。

○「恵みのみ」

Sola gratia（ソラ・グラティア）-- ("by grace alone")

救いはただ神の恵みによるもので、罪びとたる人によりなされるものではなく、ただキリストによる神からの賜物であること。これはカトリック教会の教えと対立することとなり、激しい論議を呼ぶこととなりました。すなわち、それは倫理を破壊して無秩序と混乱を生む考えであるという理由からでした。

○「キリストのみ」

Solus Christus or Solo Christo（ソルス・クリストゥス あるいはソロ・クリスト）-- ("Christ alone" or "through Christ alone")

キリストは神と人との唯一のとりなしをなさるお方であり、聖職者を含めその他の介在者は認めない。ルターは義認において、救いの確信は人の内側にあるのではなく、キリストのみにあると説きました。

○「神の栄光のみ」

Soli Deo gloria (ソリ・デオ・グロリア) --("glory to God alone")

すなわち、「神にのみ栄光を」という意味でローマカトリックに認められたイエスの母マリアや聖人、天使に対する「尊宗、崇敬」念やカルトに対立するものです。

参照文献：

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%BA%94%E3%81%A4%E3%81%AE%E3%82%BD%E3%83%A9>

最終更新 2016年3月15日(火) 14:49

Five solae (ファイブ・ソーラ-- 5つのソーラ)

https://en.wikipedia.org/wiki/Five_solae

This page was last modified on 2 March 2016, at 13:40.